

東京の観光振興を考える有識者会議
議事録

令和7年2月14日（金）17：15～18：15
都庁第一本庁舎7階大会議室

【江村観光部長】

お待たせいたしました。これより東京の観光振興を考える有識者会議を開会いたします。

本日は、御多忙の中、御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

議事に入るまでの間、私、産業労働局観光部長の江村が進行役を務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

まず、本日の資料を確認いたします。

お手元には、議事次第、座席表、資料1の委員名簿、資料2の本会議の設置要綱をお配りしております。資料3の持続可能な観光振興について、資料4のナイトタイム観光及び江戸の歴史・文化を活かした観光に係る主な取組、そして本日のゲストスピーカーに御説明いただく資料につきましては、卓上のタブレット端末で御覧いただけます。

端末は御自由に操作いただけますが、事務局がページ送りを行った場合には皆様の端末にも同じページが表示されますので、あらかじめ御承知おきください。

また、御参考に、都が先日発表した2050東京戦略や令和7年度予算案についての資料も机上にお配りしております。

続きまして、マイクの操作について申し上げます。

御発言の際、マイクの右側のボタンを押し、赤いランプが点灯してから御発言いただきますようお願いいたします。御発言が終わりましたら、再度右側のボタンを押し、マイクをオフにしてくださいようお願いいたします。

次に、委員の皆様の出席状況を御報告します。

本日は、15名中7名の委員の方々に御出席いただいております。石井委員、小巻委員、マリ委員はオンラインで御参加となります。マリ委員につきましては、この後、オンラインで御参加いただける予定でございます。出席者につきましては、座席表の配付をもって代えさせていただきます。

また、本日は、委員の皆様に加え、ゲストスピーカーにお越しいただいておりますので、御紹介をいたします。

じゃらんリサーチセンター研究員の長野瑞樹様でございます。

【長野氏】

よろしくお願いいたします。

【江村観光部長】

長野様からは後ほどプレゼンテーションしていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、この後の議事進行につきましては、佐藤座長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

【佐藤座長】

それでは、2024年度第2回目の東京の観光振興を考える有識者会議の議事を進行させていただきます。

本日は、「持続可能な観光振興」をテーマとしてゲストスピーカーの長野様にプレゼンテーションをしていただいた後、委員の皆様にご意見交換をしていただくことになっております。

あわせて、昨年12月5日に開催をいたしました今年度第1回目の有識者会議における江戸の歴史・文化を活かした観光と東京のナイトタイム観光についての議論が東京都の来年度予算案にどのように反映されたかにつきまして、事務局から報告していただくことになっております。

それでは、初めに、小池知事から一言御挨拶をお願いいたします。

【小池知事】

皆様、こんにちは。御出席賜りまして、誠にありがとうございます。

もう皆さん御承知のように、今、インバウンドは活況を呈しているわけですが。訪都外国人、こちらについては、2023年に過去最高で1,954万人。2024年でございますが、それを上回るペースで、まだ数字がまとめ切れていないので上半期だけで申し上げますと1,240万人、掛ける2しただけで2,500万人という計算になるかと思っております。

最新の都市総合力ランキングでナイトライフのランキングが行われているんですけども、その充実度がこれまで30位でございましたが、このところ一気に8位へと大きく上昇いたしております。東京が世界に誇る治安のよさを考えても、ナイトタイムエコノミーの基盤は極めて強固だと思います。この有識者会議においても、ナイトタイム観光についても様々な御意見も頂戴しております。こういったことも活かしながら、これからも伸ばしていけるところは伸ばしていきたいと思っております。

今日のテーマは「持続可能な観光振興」ということで御議論をお願いしたいと存じます。2050年代を見据えました東京の新たな長期戦略という案を組んでおりまして、こちら（机上の「2050東京戦略（案）」）、小冊子になっておりますけれども、こちらのほうに様々な、「もっと魅力あふれる街へ」とか表紙だけでも幾つか項目が並んでおりますけれども、多彩な魅力をさらに磨き上げながら、観光における持続可能性を確保していくということもビジョンに挙げているところでございます。

先日、バンコクを久しぶりに訪問いたしまして、非常にライトアップが美しく、夜の明るさというのが魅力を増しているなということを感じてまいりました。また、ナイトマーケットなども非常ににぎやかで、夜10時過ぎではありましたけれども、まだお店はにぎやかだったんですね。まだそこから始まるのかもしれない。そして、非常に自然環境にも目配りをした政策を実行しておられるということで、私のカウンターパートはチャットチャートという都知事

さん——バンコク都の知事さんなんですけれども、いろいろと御紹介をさせていただいて、参考になることもたくさんございました。

自然環境に配慮した観光、そして住民と旅行者の良好な関係づくりなど、他の街の例なども参考にしながら進めていきたいと思えます。

今日は長野さんにプレゼンテーションをお願いしております。観光における持続可能性ということについて御意見を賜ればと、このように思っております。

これからもこの観光という分野は大変大きな東京としても産業であり、楽しみであり、街の魅力をどんどん増していくという点でも可能性はまだまだ大きく秘めていると思えます。皆様方の御意見を賜ってさらに伸ばしていければと、このように思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

【佐藤座長】

小池知事、ありがとうございます。

知事は、公務のため、ここで御退席されます。

【小池知事】

ちなみに、この新聞（机上の「2050東京戦略新聞」）は「22世紀の予言」。何の予言をしているかというのは、みんなでわいわいと長生きして、中には、「健康で120歳まで死ねない」——長いですよ、これから——とか、お友達が宇宙人とか、こちらの別の面（裏面）では、報知新聞が「二十世紀の豫言」というのをやっております、当時はまさかと思うようなこともいっぱい書いてあるんですが、今やもうほぼと言っていいかもしれません、実現している。ということは、いろんな夢や希望、いろんなことを実現する可能性は今後幾らでもあるということなのではないかなと思っております。

どうぞ今日もよろしくお願ひ申し上げます。お先に失礼して申し訳ございません。ありがとうございます。

（小池知事退室）

【佐藤座長】

それでは、会議を進行させていただきます。

冒頭にも申し上げましたが、本日のテーマは「持続可能な観光振興」ということであります。まず事務局から資料の説明をいただきまして、続いて長野様からプレゼンテーションをしていただきます。長野様のプレゼンテーションの後に委員の皆様へ御議論をいただきたいと思えます。

それでは、まず、事務局より資料説明をお願いいたします。

【前田観光振興担当部長】

それでは、資料3「持続可能な観光振興について」を御説明いたします。

まず、「持続可能な観光（サステナブル・ツーリズム）」とは何かについてですけれども、これはおさらいになりますが、UN tourismは、サステナブル・

ツーリズムを訪問客、業界、環境、そして訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在及び将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光と定義しています。

サステナブル・ツーリズムは、自然環境に配慮した観光だけではなく、文化や社会経済への影響への配慮も含む幅広い概念です。

下の図にありますように、「経済的に成長できる」「環境的に適正である」「社会文化的に好ましい」という3つの要素が重なる部分が「サステナブル・ツーリズム」です。

観光が将来にわたって持続可能なものとなるよう、観光が影響を及ぼす様々な側面においてバランスを取り、経済の活性化や自然環境の保全、事業者や地元団体など観光を担う様々な主体の持続的経営、住民と旅行者の良好な関係づくりなどを多面的に推進していくことがサステナブル・ツーリズムにつながります。

次に、サステナブル・ツーリズムの推進に関するこれまでの都の主な取組です。

まず、「住民と旅行者の良好な関係作り」です。先ほどの3つの要素のうち、こちらは主に「社会文化的に好ましい」ことを目指すものとして、都民が都内各地の魅力や地域の課題を学ぶイベントなどにより東京への愛着と観光客を受け入れる機運の醸成の取組や、観光産業がもたらす経済効果など観光振興の意義を分かりやすく発信し、観光振興への都民の理解を促進する取組を実施しております。また、多言語のリーフレットや知名度の高いキャラクターの活用などによりまして、マナーや日本の習慣を旅行者に紹介をしております。

次に、「混雑緩和等の支援」や「観光需要の分散」です。主に「経済的に成長できる」の視点ですけれども、混雑緩和対策など、区市町村が地域の実情に応じて実施する取組への支援や、日本各地との相互誘客、多摩・島しょ地域への誘客、夜間観光の充実などによる観光需要の地理的・時間的な分散に取り組んでいます。

最後に、「環境や文化等に配慮した観光の推進」です。主に「環境的に適正である」ことを目指すものとして、地域の文化や産業等を学ぶツアーの造成や、地域におけるサステナブルな観光コンテンツの発掘等を支援するとともに、宿泊業等の観光関連事業者が環境対策として取り組む節水やペーパーレス化などに資する取組を支援しております。また、サステナビリティの確保に係る国際認証の取得に必要な取組等を学べる講座を事業者の皆様方に提供しております。

このほかに、資料4として「ナイトタイム観光の充実及び江戸の歴史・文化を活かした観光の推進に係る来年度予算案における主な取組」の資料をつけてございます。

前回の有識者会議でお示しをさせていただきました取組の方向性を踏まえ、

来年度の主な事業を御紹介しておりますので、時間の関係上、この資料についての説明は割愛させていただきますが、後ほど御覧いただければと存じます。

それでは、事務局からの説明は以上となります。

【佐藤座長】

ありがとうございました。

次に、長野様からプレゼンテーションをいただきます。長野様、よろしくお願いをいたします。

【長野氏】

皆様、改めましてよろしくお願ひします。じゃらんリサーチセンターの長野と申します。本日はこのような場でお話しさせていただく貴重な機会をいただきまして、ありがとうございます。

私のほうからは、タイトルに「オーバーツーリズム」と仰々しく入ってしまっていますけれども、本日は私の研究するオーバーツーリズムというところをテーマに、観光の推進と持続可能な観光地域づくりの両立をどのように進めていく、どのように考えていったらいいかということテーマにお話しさせていただきます。

改めまして、私、長野と申しまして、旅行予約サイトのじゃらんに2021年に異動してきまして、旅行については携わらせていただいて5年目になっております。研究テーマは、オーバーツーリズムとかまち歩きによる消費額の向上といったところをテーマに研究しています。

次、お願ひします。我々じゃらんリサーチセンターなんですけれども、観光についての実証ですとか調査、あと実験みたいなところを通して、新しい観光の価値ですとか地域づくり、地域活性についての研究をしている組織でございます。

では、早速本題に入らせていただきたいと思います。

。本日のお話の起点が、今からちょうど1年前——2024年2月27日なのでぴったり1年ぐらい前だと思うんですけれども、東京観光財団さんと台東区さん、この3者で共同研究をした結果というものを1年前にレポートという形で公表させていただきました。この頃はまだコロナ以降の観光が戻り切るか切らないかぐらいで、ちょうど海外を含めてオーバーツーリズムということが言われ出した時期に研究を始めたんですけれども、そもそもオーバーツーリズムとは何かというところから始まったんですね。なので、そこを定量的なデータをひもときつつ考察するといった内容になっています。

このレポートの結果としては、一くくりにオーバーツーリズムと一言で言っても、各地域で起きている事象を見ていくともう全然違う、全く異なる問題が起きているということがまず1つ分かりました。2つ目としては、今までの観光推進は、旅行者数であったりとか地域の消費額といった、あくまでその地域

にどれくらい人が来てお金を使っているかというところに焦点を当てた目標設定であったりとかというのが多かったんですけども、そもそも何のために観光を推進しているのかというところをいま一度考えると、そこでの地域の暮らしをよりいいものにしていくという大前提があると考えたときに、やはりもう少し住民が観光に対してどういう思いを持っているかとか、どういうことを感じているかということにもう少し焦点を当てるべきではないかということを書かせていただきました。

ちょっと内容を細かいところを説明していければと思うんですけども、1つ、「オーバーツーリズム」という言葉に対する私の考えをここで説明させていただきます。

言葉で書くとちょっと分かりづらいので、よく例え話をさせていただいているんですけども、頭が痛いときに「頭が割れそう」という言葉を使うことがあるんですね。オーバーツーリズムは、まさにこの頭が割れそうみたいな言葉と似ているなと思っています。

1つは、あくまで状態を表す言葉ですよというので、頭が割れそうというのは、頭が痛いという状態を表すと思うんですけども、それが二日酔いなのか、それとも何か重大な疾患を抱えているか、そういった原因は分からないんです。あくまで頭が痛いという状態を表す言葉でしかない。

2つ目が主観的な表現であるということで、「頭が割れそう」、あなたの頭の割れそうな程度を5段階で表すと幾つですかなんて表すことができなくて、じゃあ、この地域はどのぐらいオーバーツーリズムなんですかということのを定量に表すことは、いろんなデータを見てもかなり難しかったです。

3つ目が比喩的な表現ということで、「オーバー」という言葉は「超えている」という意味だと思うんですけども、1つ表現として「It's over (もううんざりだ)」みたいな表現の仕方があります。これがこのオーバーという意味なんじゃないかなと思っています。やっぱり観光に対する負の感情というか、もう観光なんてうんざりだという感情的な表現とも言えるかもしれないですけども、そういう例えが含まれた表現なのかなと思っています。

こういうことを踏まえると、必ずしも「オーバーツーリズム」という表現が適切だというふうには私も思いませんし、あまりこの言葉が独り歩きするのもいい状態ではないと思っています。ただ、やっぱり観光客が増えるということによって各地で問題自体は発生しています。これは事実だと思いますし、海外などを見ると住民運動に発展しているケースというのも、これもあることは事実なので、やはりこの問題から目をそらすことはいけない。「オーバーツーリズムなんてないですよ」ということを言うのではなくて、一つ一つやっぱり地域で起きている問題に目をそらさずに向き合い続けるということが必要なのではないかと考えております。

次に、10ページを御覧ください。いろいろ分析してきた結果、今、地域によって問題が全然違いますというお話をしたんですけれども、その地域の特徴を分類すると、ある程度似たような問題が起きているということは言えそうだということが分かりまして、例えば東京のような都市においてでも、都市のタイプも全然違います。

例えば上の「観光ハブ都市」と名づけたものと、割と滞在時間が長くて、ほかの都市へのアクセスもいいということで、東京を起点に連泊しながらいろんな地域を観光するような拠点となるような都市のタイプもあれば、都市型の一番下「メイン目的地タイプ」と名づけたのは、アクセスもそこまで高くないし、滞在期間も短い、つまり無理してでもちょっとここだけどうしても行きたいですよみたいな観光地のタイプに分かれたりして、こういうふうに分けてみると、それぞれの対策の方向性も見えてきそうだなというところが見えてきました。

続きまして、先ほど住民への配慮というお話をさせていただいたんですけれども、じゃ、そもそも何が起きると住民感情は悪くなるんでしょうかというところもデータとして検証してきました。

こちらがよく行政などに寄せられる住民の観光に対するネガティブな声を集めたものなんですけれども、並べてひもといてみると、大きく住民のネガティブな声も3つに分けることができます。1つが「不安」、2つ目が「不快」、3つ目が「不利益」と呼んでいますけれども、不安なんていうのは、実害が発生しているわけではないけど、このまま観光を推進してこの街は大丈夫という、何となくちょっと不安に思うような気持ち。例えば一番下の不利益でいくと、もう明確な実害が出ています、ルール違反が発生しています、困っていますという、そういうような意見に分かれるんですね。

こうやって分類してみると、それぞれの方向性というのかなり変わってくるなと思っていまして、何となく漠然とした不安みたいなところでいくと、しっかりやはり街の計画というものを理解してもらって、そのために住民と足並みをそろえながらいろんな事業を進めていくということが必要ですし、不利益については、明確なルール違反、ルールがないようなグレーゾーンなのであればそこにしっかりルールをしいていくというような取組が必要だなと感じています。

その住民感情を悪化させるトリガーについても定量的に検証してみました。検証の方法としては、これが起きたら住民感情が悪くなるんじゃないかというところを仮説を立てて、それでデータを引っ張ってきて検証したというような流れになっています。

先ほどちょうどナイトライフの話が出ていたかと思しますので、16ページを開けますでしょうか。こちらが、横軸がホテルの客室数ですね。世界中のいろ

んな都市におけるホテルの客室数を横に取って、縦がナイトライフの充実度という項目を取っています。恐らく先ほど知事がおっしゃったのと同じデータで分析しているとは思いますが、こうやって並べてみて、丸の大きさが外国人の訪問数の多さでございませう。東京が右端のほうにありまして、ホテルの客室数はかなり多いんですけども、ナイトライフの充実は、先ほど8位まで上がったというお話がありましたけれども、この時点ではそこまで充実していなかったというようなデータになっています。ほかの世界のアムステルダムとかバルセロナというのが、ちょうどホテルの客室数で言うところと20から40の値の上のほうに来ていると思うんですけども、こういったところが、やはりナイトライフが充実している割に宿泊施設がそれほど多くないというような都市になっています。なので、東京もまだまだ伸ばす余地はあるよねという話にも取れると思いますし、逆に充実させ過ぎてその割に宿泊施設が足りないみたいな話になってきてしまうと、やはり夜中まで騒ぐ外国人の方がいるとか、あとはホテルじゃなくて民泊のようなものが増えるみたいな、そういうことがきっかけで住民感情を悪化させるという可能性はあるなと考えております。

先ほどの仮説を検証した結果をまとめたのが18ページなんですけれども、何となく関連性が高そうだよなというものに星を3つつけています。先ほどのナイトライフですとか、あと都市の交通インフラが脆弱だとやはり日常生活に支障を来しますよねとか。あと5番なんかは、日本でこれだけごみ問題が言われるのは、日本がきれい過ぎるからなんじゃないかみたいなこともたまに言われてまして、やっぱり検証するとそういったところもデータとして出ますと。9番目は、都市における観光依存度。ちょっと分かりづらいんですけども、都市の中にはいろんな文化資源、観光資源含めてあると思うんですけども、その資源が観光に偏り過ぎてしまうと、やはりその地域全体の観光依存度が高まるということは考えられますし、そこに住んでいる住民の方が、余暇を楽しむレジャー施設みたいなのが本当に観光施設しかないとなってしまったり、例えば劇場みたいなものとか図書館が少ないとなってしまうと、やはりネガティブな感情を抱いてしまうということはあるのかなと考えております。

続きまして、今のが大きいくくりで分析した結果なんですけれども、より細かい視点で分析するというのもしております。

台東区の浅草はかなり観光地だと思うんですけども、舞台に、こちら（20ページ）、人流のヒートマップ——これ、国内の方々のデータになってしまうので、外国人ではないんですけども、ヒートマップを出して、具体的にここが混んでいますという分析をするということもやってみました。

ただ、やっぱりただ人流を見るというだけだとあまり分かることはなくて、次のページのように、例えばバスのルートと比較しますとか、電車のルートもしくはダイヤみたいなものと比較しますというところを見てみますと、例えば、

住民アンケートとかで分かったんですけれども、観光にネガティブな思いを持っている人が多い地区というのが見えてきまして、そこを人流とバスルートとかを比較してみると、なかなか交通手段が限られてしまう。例えばバスで浅草駅まで行ってそこから電車に乗るとか、そうでない場合は30分歩いてほかの地下鉄駅に行かなければいけないですとか、そういうケースがあったんですね。そういう代替が利かない交通手段の中に旅行者が増えてきて、例えばバスがもう本当にスーツケースを持った人ばかりであふれ返ってしまっているとかとなると、それはやっぱり住環境の悪化と言わざるを得ないよねとか、そういうことも考えられるかと思います。

という調査を1年ほど前に公表させていただきまして、1年ほどたったわけですけれども、相変わらず「コンビニ富士山」という言葉が流行語にノミネートされたりとか、あとバルセロナでもまた住民運動が起きましたし、宿泊税の問題ですとか入場料という問題も、二重徴収みたいな話もにぎわせた1年だったかなと思います。

ちょっと課題だと感じたのが、こういう状況に対して地域がちゃんと対応できていないんじゃないかという声が結構あったということですね。ちょっとやっぱり私自身悲しい気持ちにはなったんですけれども、それに対して地域がどういうふうなことを考えているのかというのはしっかり明らかにしたいなと思いました。

24ページをお願いします。1つ調査をやったんですけれども、現状のオーバーツーリズムと言われている状況に対して、観光事業者であったりとか行政の皆さんがどういうことを考えていらっしゃるかという――これは弊社のネットワークを使ってアンケート調査をしたんですけれども、調査をさせていただきました。

データを2つ御紹介させていただければと思うんですけれども、。こちらがいわゆるオーバーツーリズム対策、観光庁から出ている事業などにも書かれているものを取り上げていますけれども、オーバーツーリズム対策の中で、少々見づらくて申し訳ないんですけれども、質問を3つ聞いておりまして、数字が書いてあるところにQ11、12、13と書いてあるんですけれども、一番上のQ11がこの中であなたの地域で必要だと思う対策を全て選んでください、その下のQ12が選んだ中で最も大事だと思うものを1つ選んでください、Q13がちょっと変わりました、必要なだけけれども、実際やっぱり対策していくのは難しいですよと思うものを1つ選んでくださいというような3つ質問を投げさせていただきました。

やっぱり結果を見ると、マナー対策、インバウンド、国内区間問わずマナーの啓発というところはかなり皆さん必要だとおっしゃっているようなところでした。あと、ほかで高かったのが交通、公共交通の輸送力増強といったところも

高かったです。実施が難しい対策は何ですかと聞くと、やっぱり公共交通がかなり高かったですね。パーク・アンド・ライドみたいな、観光地の周りに車を止めていただいて、そこから例えばシャトルバスで観光客を輸送して交通渋滞を解消するとか、そういう取組もあったりするんですけども、やっぱり地域の中で実施していくとなると難しいといった声が多かったです。やっぱり交通問題は観光のセクターだけで解決するのはなかなか難しく、国土交通省の中に観光庁があるので、そこで一体化できるということでもあるんですけども、やっぱり各自治体になってしまう。そもそも観光と土木とかが離れていたりということも考えられますので、なかなか面的に対策していくのが難しいといったことなのかなと思います。

もう一つ、オーバーツーリズム対策を行っていく上で、1つ分散という考え方が重要になってきます。先ほども分散のお話が出ていましたけれども、いろんな分散対策があると思っていて、どういうことをやっていますかという設問もほかで聞いています。ここでは、やはり分散対策は難しいですという声もそもそも多くて、それがなぜ難しいんですかというところを聞いた質問になります。

注目すべきは2点ございます。1つが人手不足。2つ書いてあると思うんですけども、労働力という純粋な数も足りないし、スキルといった能力面がある人材がないということも、両方含めて人手が足りないというような意見が出ていました。もう一つがエリア間の連携・役割分担が難しいということで、特に行政などでいくところといった課題をお持ちの方いらっしゃるかもしれないんですけども、ほかの地域と連携して集中している観光地から分散を図っていく、その共通認識を持って1つの取組をしていくのが難しいというお声が多かったです。やっぱり混雑しているほうともっと人が来てほしいよというところの課題観が必ずしも一致しない場合があるということもあると思いますので、難しさはあると思うんですけども、ただ、課題の解決という意味では、広くエリアを見て混雑とか一極集中を解消していくということは必要だし、これからやっぱり取り組んでいかなければいけないことなのかなと考えております。

次のページが、先ほど分散、「時間」的と「場所」的という話があったと思うんですけども、もう少し細かく考えることもできるかなと思っています。

時間的分散でいくと、やっぱり繁閑差を埋めるという話もあると思うんですけども、ちょっとずらすみたいなことをやるだけでも大分変わるかもしれないですということは1つ言わせていただきたくて。例えばある観光地で人気のスポットが10時オープンですと、そこを目指して皆さん旅行者が9時に来ますとなったときに、その周辺で9時に通勤している人がいっぱいいますとなったら、ここでやっぱりバッティングしちゃうんですね。ただ、それを1時間営業時間、開始時間を後ろ倒すとなってくると、そこがバッティングしないで、住

環境というか通勤の環境が少しよくなるみたいなことは十分に考えられるんですね。なので、時間的分散といっても細かく見てみたり、それから最初に申し上げたようなシーズナリティをしっかりと埋めていくというような取組も大事だと思っています。

場所的には、本当にスポット、スポット、この通りが混雑します、この交差点が混雑しますという話も、それは自治体のほうで細かく見ていかなければいけないですし、広域連携、先ほど申し上げた観点で言いますと、やはり自治体同士が連携したりとか、あと広域DMOなんていうものもありますけれども、そういったところと連携しながら分散を進めていくということは大事だと思っています。

最後に、この調査を続けていて出会った事例を幾つか御紹介できればと思っています。

1つが広島宮島の事例なんですけれども、やっぱり観光庁が今やっているオーバーツーリズム対策とかの内容を見ても、スマートごみ箱を設置しましょうとか、サイネージを設置しましょう、ピクトグラムを作ってマナー啓発しましょうとか、そういった内容が多くなっているんですけれども、これは宮島の事業者さんたちが自分たちでお金を出し合ってやっている取組です。何をやっているかというところ、ワゴンを押して、落ちているごみを拾うとか、あとごみを持っている観光客がいたら「それもらいますよ」という形でごみを回収するというような取組をやっています。やっぱり本当にこういう一言があるだけで観光客も気分がよくなりますし、このワゴンが見えないところでごみが発生したときにも、この方の顔が思い浮かぶみたいで、本当にポイ捨てが減ったという話を聞いています。やっぱり観光はこういう情緒的な価値を求めて訪れる方々が多いので、デジタルの対策、もちろん必要だとは思いますが、その中にも人を介在した価値というのを発揮していけるとよりいい取組になるのではないかなと思っています御紹介させていただきました。

次のページが、浅草でも似たような取組をやっています、やはり和の場所ということで、忍者の格好をしたり和装してごみを回収するという取組をやっています、結構これも観光客から評判がよかったという話を聞いております。

次は広域連携の事例を御紹介させていただきます。こちらが関西観光本部という広域連携DMOが実施している取組なんですけれども、京都を中心に福井・兵庫・三重の3県がもともと歴史的に食材を献上してきた「御食国(みけつくに)」という言われ方をしていることから、それをプロモーションにして、京都と一体となってこの文化をプロモーションしたというお話でございます。これをプロモーションした結果、京都だけではなく、福井・兵庫・三重の宿泊施設にもかなり予約が入りましたし、そういった意味では分散が実現できた事例でございます。こういった事業で肝となっているのが、京都のほう为主体的にこの事

業に参画してくれたというのが非常に意義深く、東京も東京を起点に各地に分散させていくということを考えると、東京を主体にやはり関東広域で見分けていくということが非常に重要なことだと思っております。

最後、まとめでございます。オーバーツーリズムという言葉自体にはそんなに大きな意味はないんですけども、実際に問題は発生しているので、それはしっかり見ていきたいと思いますという話と、宮島の事例からは、「ロマン」と「ソロバン」と言ったりしますけれども、情緒的価値というものとデータというものをしっかり両輪で見ていきたいと思いますという話ですね。今後のキーワードとしては、「地方分散」と「広域連携」というものをどのように実現させていくか。そういう状況の中でキーとなるのは、やはりこの観光客が集中する東京だと思っております。東京を中心に、東京を目的に来るんだけれども、その方々をどのように地方に誘客していくか、どのようにより広い視界で見たときの観光を楽しんでいただくかというところは、非常に今後やはり考えていかなければいけないことなのかなというふうに感じております。

本日の話は以上でございます。ありがとうございました。

【佐藤座長】

長野様、ありがとうございました。とても分かりやすいプレゼンテーションだったと思います。ありがとうございました。

それでは、委員の皆様の見解交換に入ります。事務局からの説明や長野様からのプレゼンテーションを踏まえ、皆様から御意見をいただきたいと思っております。長野様への御質問がありましたら併せてお願いをいたします。

なお、本日の会議は18時15分頃の終了を見込んでおりますので、御協力をお願いいたします。残り時間から計算いたしますと、お一人4分弱ぐらいになりますので、よろしくお願いいたします。

では、まず、オンラインで御参加の委員の方々から御発言をいただきたいと存じます。

まず最初に、石井委員、お願いをいたします。

【石井委員】

御指名ありがとうございます。本日はそちらに伺えなくて大変残念に思っております。実は1時間ほど前に東京に着きまして、インバウンドのような気分で今こちらに参加させていただいております。

委員の皆様、それから知事のお話を伺った後の長野さんのお話、大変示唆に富んだプレゼンテーションで、大変勉強になりました。ありがとうございました。

ナイトライフの起爆剤となるライトアップというものを本業にしておりますので、その観点から少しお話を、今気づいたところを挙げさせていただきましますと、まず、自治体、行政としてできることと、それから民間ができることを支

援するという2つの窓口に大きく分けられると思うんですけども、東京都としてぜひお願いしたいのは、まず、夜間の公共交通の充実、これは週末だけでも少し拡充させるとすごく恩恵が分かりやすいのではないかと思います。

以前にもお話ししたと思いますが、ヨーロッパの主要都市、観光都市は、週末一晩中メトロが開いているところもありますし、パリは、割と最近、週末だけメトロの終電を1時間ほど遅らせるということをしています。こうしたことは、やはり先ほどのプレゼンテーションでも交通網を広げることが一番難しいと考えられている中で、それを推進することによってまず行政のイニシアチブというのが分かりやすく反映されると思いますし、そうした交通状況に慣れている海外からのインバウンドの方にしてみれば、やっとなんか普通のレベルになるということで、東京のナイトライフが楽しくエンジョイしやすくなる基盤をつくっていただくことができると思います。

それから、ちょっと照明とは外れますが、東京は皆さんもほとんどのマナーがよければ、ごみ箱の数が非常に少ないというふうには海外の方からは言われています。捨てるだけでも捨てられないからつい捨てちゃう。別にエクスキューズになりませんが、パリなんかはそれを見越してあらゆるところにごみ箱がある。これはやはり、行政が力を入れて、街並みをきれいにするだけでなく、街のごみ対策みたいなことに非常に力を入れていることによって、10年前、20年前に比べると格段にそれが進んでいます。日本人がごみ箱が必要ないからといって、なくてよいかどうかというのはちょっと議論の余地があるのではないかなというふうに思います。

あと、それから、行政としては、民間がやっているこういういろんなエンターテインメント、イベント、そういうものとリンクするということを今進めていって、いらっしゃるといって資料で拝見しておりますけれども、さらにもう一步、江戸の魅力というのとナイトライフというのを組み合わせることによって、相乗効果ができるのではないかなというふうに考えております。

例えば、江戸だけではなくて、様々な歴史的なモニュメントとか、エンターテインメントみたいなものを含めた大きな枠組みが、フェスティバルみたいに短期間のものでいいですし、もう少し長期的なものでもいいですし、何か起爆剤になるような催し物があって、それを交通網でつないで、さらにそれが定着したら、東京だけではなくて、埼玉の宿場町とか、日光とか、鎌倉とか、関東にだんだん広がっていくような、そういうことができるのではないかなというふうに思います。

鎌倉なんかは典型的な日帰り都市ですので、ライトアップなんかを活用することによって、分散した宿泊、それから訪問時間のうまい組合せというのができると思いますし、やはり夏がどんどん暑くなっている中で、先ほど知事のバンコク訪問の話もありましたように、暑いのを避けて夜を涼みながら楽しめた

いというニーズがますますこれから増えていくことが見越されると思います。そうした中で、やはりライトアップを活用することによって、美しさ、美観の向上、安全性の確保、それから観光への貢献が見込まれますし、また、それをぜひ行政側のほうでうまく枠組みをつくることによって環境に優しい、サステナブルな形で進めることを推進する、それがまたサステナブルに敏感なインバウンドを引き寄せるといようなうまいサイクルができるといいのではないかというふうに思います。

日本のライトアップ、どうしても何か当てたらいいいというか、当てておしまいというのがまだまだ見受けられる中で、環境にどうしたら合致したライトアップをつくることができるかというのは私どもプロも日々考えているところでもありますので、こうした取組がますます進んでいくことを期待しております。

以上でございます。

【佐藤座長】

石井委員、ありがとうございます。

続きまして、小巻委員、お願いをいたします。

【小巻委員】

本日はありがとうございます。

まず、長野さんに御質問をお願いしたいと思います。いろいろ本当に興味深い研究結果をありがとうございます。

冒頭、小池知事のほうからナイトタイムの満足度が30位から8位になったという話もありましたけれども、直近の観光の課題は、長野さん、何かトピックがあれば教えていただけますでしょうか。

【長野氏】

直近の課題といいますと、ナイトライフに関する課題ですか。

【小巻委員】

いえいえ、全般、オーバーツーリズムを含めて、2025年になって最近感じていらっしゃる解決すべき課題というのはどの辺りにあるというふうにお考えでしょうか。

【長野氏】

最近といいますか、ちょっと歴史的な話をすると、先ほどDMOという話に触れさせていただきまして、DMOとは、Destination、MがManagement/MarketingのOrganizationということなんですけれども、もともとは結構日本で始めたときにはMarketingの要素が強くて、なるべく人を呼んできましよう、というふうに呼んできたらいいかというものをしっかり計画を立てていきましようという色合いが強かったんですけれども、結構海外の事例とかを見ますと、地域をManagementするという色合いが濃くてですね。最近、日本のDMOもそこに力を注いできてはいるんですけれども、その仕組みづくりであったり、手法、事例と

いうのがまだまだこれからなのかなと思っています。

そういった意味では、日本の観光課題という意味では、やはり来ていただいた観光客の方々をどうマネジメントして、地域としてもこういう観光をしてくれたらいいよね、観光客もその地域を観光して楽しかったねというような状況をつくるかというのが、ちょっと枠組みとしては大きいかもしれないですけども、一番課題に感じているところでございます。

【佐藤座長】

小巻委員、よろしゅうございますか。

【長野氏】

お答えになっていきますでしょうか。

【小巻委員】

長野様、ありがとうございます。まさに長野さんの資料にもマクロとミクロという言葉がありましたけれど、私はテーマパークのほうをやらせていただいているんですけど、一事業者で努力してできること、例えば平日と週末の動員をなるべく差がないようにというような企業努力はもちろんできるんですけど、もうちょっと広い意味で、地域であったりとか、東京都、あるいはもう少し広い関東エリアということで分散のようなことを考えたときに、どうしても事業者だけではできない、連携という自治体の大きな視点で、混雑しているところ、例えばまだまだ余力があるよ、受け入れられるよというところが瞬時に分かるような情報だったりとか――瞬時じゃなかったとしてもいいですよ。そういった情報は、なかなか一事業者だと難しいところがあるので、じゃらんさんのような網羅できている企業の方からの情報であったりとか、我々としても引き続きスタディしていく必要性を改めて感じましたし、自治体にお願いしたいのは、何かそういうマクロの視点からの情報をいただいた上で企業が努力できるような、そんな仕組みがあるといいのかなというふうに思いました。

あと、感想としては、やはり人手不足というところと、交通インフラというところと、宿泊施設というところが引き続き日本全体の課題として残っているのかなというところを感じております。東京都のほかに大分県のほうでもテーマパークをやっておりますと、地方なんかはやはり特に交通インフラというところが非常に大きな問題ですので、今後引き続き自治体との連携を含めて頑張っていきたいなというふうに思った次第でございます。

どうもありがとうございました。以上でございます。

【佐藤座長】

小巻委員、ありがとうございました。

続きまして、マリ委員、お願いいたします。

【マリ委員】

すみません。今日は、大変渋滞に遭いまして会議のほうに物理的にお伺いす

ることができなくて、申し訳ございません。

私も非常に長野さんの話も興味深く聞かせていただきました。やっぱりオーバーツーリズムという言葉自体が、本当に世界中で多かれ少なかれいろんなところで起きている状態であります。

ベネチアに行きますと、ベネチアに実際に住人の方々はもう住んでいなくて、郊外に住まわれて、自分の家をむしろAirbnbで貸したり、または観光客が多い時期になるととにかく離れてしまうという、そういう状況が起きているぐらい、むしろ自治体にも頼れないような状況の中で、市民が一人一人自分たちの脱出対策を自分たちでつくっているような地域もありますし、例えばパリに――石井さん、よく知っていらっしゃると思いますけど、パック（Pâques）、イースターの時期に行きますと、パリジェンヌは誰もいないんですね、パリに。みんな外に出て、そしてイースターの時期にはもう外国人ばかりのパリになるので、むしろフランス語がほとんど聞こえないような状況のときもあるわけですので。ですから、みんな自分たちの地域や自分たちの都市に合ったような形で、市民の方々が自分たちで対策を考えていらっしゃるということが一番大きな動きではないかと思えます。

状況のほうも、非常に外国人が多くて、私もつい先週ケニアから帰ってきたときに、成田空港に着いたら、日本人の方々の列に私たちは並んで――並ぶというか、すぐに通れたのに、外国人の列があまりにも多くてびっくりしまして。それで、今度、成田エクスプレスで東京に入ろうとしたら、私たちが到着してから3時間後でなければ予約が取れない状態、またはバスもバスでいっばいで「3台か4台後じゃなければ乗れません」と言われたり。これが本当のオーバーツーリズムの先ほどお話しされた頭が痛いというところではないかなと思うんですね。

そういうところをどうやって緩和していくかということが大変私はこれからも重要なことではないかと思うんです。むしろ観光というのは、大勢の方々が来てくださることが一番地域にとってありがたいことであるわけですので、その中にはいろんな問題が起きてくるのが当たり前のことになってしまっていると思うんです。ですから、そういうことに対するどういう対策を――先ほど小巻さんもお話しされたように、市民の方々がやられること、民間がやること、そして自治体がルールをきちっとつくり、そして守ること。例えば東京都ですと、たばこをポイ捨てしてはいけませんという、そういう本当に自治体が頑張っていて、千代田区のようにちゃんとお金を払わせて――だから、私たちが歩くと全くたばこかそういうものが落ちていないということは、それは一般市民がなかなかできないことなので、やっぱりそういうところは自治体にやっていただきたい。けれども、自由にビジネスができるような環境もきちっと守られなければいけないですし。

私も孫が2人いますので、この間、アメリカから来たときに、竹下通りに行きたいということで、竹下通りを子ども2人と一緒に動いたんですけども、まあとにかくいろんな国の言葉が聞けて、すごくインターナショナルな都市になっているんだなということがすごくよく分かるような状況なんですね。ですから、そういうインターナショナルな、そしていろんな国の方々が来てくれているという、そういうイメージがすごく東京にとっては大切だし、いいと思うんですけども、その中で、やはりちゃんと守られているという意識もとても重要で、特に日本人でそこに生活している方々が、警察官にもっと英語ができる警察官を増やしてほしいなど。何か変なことがあったときにすぐに英語で対応できるようにしてあげるとか。残念ながら、私は英語だからいいということではなくて、やっぱり1つのある意味では共通語になっているので、ですから、そういうことをきちんと取り締まっていただけのような状況。自由を奪われたりとか管理されたりということはあまり観光にとってはよくないことですが、万が一何か起きたときには、そこはちゃんと見張られているということがとても大事だと思いますし。

そこをもう少し日本も頑張って――特に東京都が安心・安全な街であるということを外国人が思って来られて、そして、むしろ外国人同士で問題が起きてしまったりすると、本当にせっかく日本人が日本の中で安心・安全な国づくりしているのにもかかわらず、そういうちょっと危ない目に遭わなければいけないということは、ちょっと私は観光に対して悪いイメージになってくると思いますので、そういうことはバランスよくやっていただければと思います。

取りあえずそんなところでお話を終わらせていただきます。

【佐藤座長】

マリ委員、ありがとうございました。

それでは、会場出席の委員の方々からも御発言を頂戴いたします。鎌田委員から順に反時計回りでお願いしたいと思います。

それでは、鎌田委員、お願いいたします。

【鎌田委員】

鎌田です。今日はありがとうございました。長野様の御講演を伺ってとても勉強になりました。ありがとうございます。

私、御社の「とーりまかし」をずっと拝読してまして…

【長野氏】

今も何冊かあるので、気にせずに持って行ってください。

【鎌田委員】

ありがとうございます。いつも勉強しております。ありがとうございます。

お話を伺っていて思ったのは、やはり地域間連携というのが重要で、誰がリーダーシップを取るかということなのかなと思いました。

これ、いつも思っているのは、「分散」という言葉もそうなんですけれども、「地域」と言ったときにすぐ行政区分みたいな話になるんですけど、観光客にとっては行政区分は関係ない話ですし、それから、分散と言われても、人の行動を誰かが指示するということは、これは民主主義国家にあってはならない話なので、その辺りが難しいのかなというふうに思いました。

1つ、私、マーケティングの勉強もしていますけれども、もう随分、1970年ぐらいにコトラーが言ったDemarketing（デ・マーケティング）、需要を抑えるというところなんです。それを見てみると、プロモーションだけがマーケティングではないので、やはり4P、あるいはサービスを考えれば7P、こちらでバランスよくDemarketingをいかに考えていくか。それが結果として分散ということにつながるということなので、分散が目的変数になってしまうと人の行動を縛るみたいな話になってしまうので、それはちょっと違うのかなというふうにも考えていて、それがとても勉強になりました。

ちょっと1点、お時間があれば質問なんですけど、後で個人的に教えていただいてもいいんですが、先ほど行政、企業の方に質問をしたということで、非常に面白い—面白い—というか、興味深い結果ですね。すみません。実施が難しいもののお話が出てきたんですけども、これ、スライド10で、都市型、リゾート型、アイランド型、自然型ということで、オーバーツーリズムの問題について分類されていたと思うんですけども、やはりその分類に応じて課題観というのも違ったのか、それとも同じだったのかというのは、ぜひ教えていただけたらなと思います。

以上です。ありがとうございます。

【佐藤座長】

鎌田委員、ありがとうございます。誠に申し訳ないんですけど、時間の都合がありますので、回答は、長野様、後ほどお願いをしたいと思います。

それでは、滝委員、お願いをいたします。

【滝委員】

滝でございます。長野さんのお話を聞いて大変参考になりました。ありがとうございました。

私は観光とは何かというと、一番の基本が雇用をつくるというか、産業だと思っています。ここに来て自動車産業に次ぐ産業に見えてきたような中で、日本は食べるものもおいしい国ですし、いろいろな意味で一大産業に育てられる身近な産業だと思うんですね。

地元の人から見ると、大変な雇用が生まれるわけで、オーバーツーリズム云々の前に、やはり継続的に観光客を迎え入れる、最大限にお金を落としてもらうことを考えたい。自分たちにつながっているという意味で、行政との関係も、作業を分担するというよりは、ボランティアだけじゃなくて、地元に徹底的に

行政から補助金、お金を出す。外から人を持って来るんじゃなくて、地元の人に補助金を出して、ごみの問題などにしても考えてもらう。あるいは、江戸からの歴史的な魅力にしても地元の人が一番よく細かく知っているわけで、それを、分散して考えるんじゃなくて、満遍なくどこかで必ず楽しいイベントをやっているように考えてもらう。これは地元だけに任せるだけじゃなくて、行政が補助金を出すことで、地元からすると雇用をつくってもらえているというように意味で心を込めた形で考えるというんですかね、そんな形があるのかなと思う。長野さんの話を聞いていて、人の介在という言葉聞いて、あ、そうかというふうに。考えてみれば、地元のためですよ。

それで、特にさっきの行政区分の問題がありますけども、観光客から見れば、観光資源が多い地域の隣も観光資源がなくても実は宿泊とかいろいろ考えたときにはすごく意味があるわけで、そこから人が流れてくるわけで、そういう意味ではいろんなお手伝いができるわけでありまして、やっぱり大変な産業が生まれつつあるんだという思いで、今、真剣に日本は考える時期に来ているんじゃないかなと、そんな感じを、意見になるかどうか分かりませんが、思っております。

【佐藤座長】

滝委員、ありがとうございます。

それでは、最後に、田中委員、お願いいたします。

【田中委員】

田中です。どうもありがとうございます。

サステナブルな観光振興に必要なのは、環境、自然、経済のバランスの取れた成長だというふうに思います。本日、貴重なプレゼンを長野さん、ありがとうございました。

まとめていただいたポイントは、観光の発展とかオーバーツーリズムの対応としても、地元にもたらすメリットをさらに明らかにすべしというふうな御示唆だったのではないかと理解をいたしました。

そこで、次なる戦略のベースとしては、観光サーキュラーエコノミーの実践というふうなことかと感じます。御紹介いただいた取組事例、ナイトタイムや江戸博からもすごく東京都の観光は活性化しているように思いますけれども、これらの知見を形にして、観光によって地元が潤って、また付加価値ができて各地の価値が向上したということがさらに見える化するような取組をしていければと期待します。

具体的には、例えば国内の観光客を増やすことと海外、インバウンドを増やすことの両方に力を、東京都としては入れてほしいなと思うところです。その心は、1つ目の国内について、人と人のつながりをつくって新しい観光ルートを形成するきっかけをつくりたい。日本各地から東京を訪れる人たちが新たな

東京を発見してくれると、それが新たな観光の魅力にもなります。

長野さんにお示しいただいたナイトタイムのところも、あのデータには多分国内旅行者は入っていないくて海外の方が東京をどう見るかということだったと思うのですが、多分地方都市から来た人は東京の夜は楽しいなとみんな思うと思うんです。だから、その楽しみ方を、さらにインバウンドに知見として使えるようなものが出るかと思えますし、東京に入ってから地域へということもできると、東京から日本各地への貢献ということがさらに明らかになるかなと思います。

もう一点、ちょっと忘れたくないと思う取組は、これらの取組を進化させるのはやはりDXです。ご説明のデータ活用の部分では、観光における雇用とか人材のお話もありましたけれども、どうしても人手不足ですし、観光を楽しいものにする、思い出深いものにするのは、東京に来てくれたときの人との触れ合いとか、特別な体験とか、お店での店主の方との会話とか、こういうものがあってこそです。これらをAIにうまい形でラーニングをさせるということをもっと工夫してはどうかと思えます。

知事が冒頭お話しされた住民と旅行者の良好な関係づくりというのも、具体的にはAIがラーニングをすることでここから一定の知見もまた出てくるというふうに思えますし、これが果たせれば、観光の分野は比較的年収もあまり高くないとか待遇課題がいろいろ言われましたけれども、雇用状況がバージョンアップして、働き手の内容も向上するのではないかと期待をしますので、このサステナブルとサーキュラーエコノミーとDX、特にAI、ここは観光の中でフルに活用して、東京都の観光の取組自体をブランディング化していければと思います。よろしくお願いします。

【佐藤座長】

田中委員、ありがとうございます。

まだまだ御意見等もおありかと存じますけれども、お時間の関係もありますので、この辺りで意見交換は終了とさせていただきます。

本日は、委員の皆様から多様な、かつ貴重な御意見を賜り、ありがとうございました。

持続可能な観光振興に関して、本日委員の皆様からいただいた御意見につきましては、今後の東京都の観光振興関連施策に効果的に反映させていただくよう事務局に対してお願いをいたします。

また、その際には、持続可能性を構成する3つの要素、すなわち経済、環境、それから社会・文化・地域、この3つにバランスよく目配りしていただきますようお願いしたいと思います。

それでは、事務局にお返しをいたしますので、連絡事項等がございましたらお願いをいたします。

【江村観光部長】

事務局でございます。

本日は、貴重な御意見を賜りまして、誠にありがとうございました。

ただいま委員の皆様からいただいた意見につきましては、今後の東京都の観光施策の推進に活かしてまいりたいと存じます。

事務局からは以上でございます。

【佐藤座長】

ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして本日の会議を終了いたします。

皆様、どうもありがとうございました。